

平成24年度の学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>①様々な体験や世代・領域を超えた多くの人との出会いの場の提供と積極的な活用 ②生徒の可能性を引き出し、能力を最大限に伸ばすことのできる教員・生徒間の信頼関係の醸成 ③学習不振、学校不適応、発達障害など特別に支援の必要な生徒についての日常的な情報交換と組織的対応 ④ホームページ・中学校訪問などを通じた的確で迅速な情報発信 ⑤安全で快適な教育環境の整備 ⑥組織及び個人の両面におけるコンプライアンスの徹底</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>学習指導</p>	<p>①65分授業の充実と授業改善 ②個々の生徒に応じた学習指導法の確立</p>	<p>・3年間を見通した実践的な学習指導計画を立てる。 ・生徒の多様化に対応した適切な学習指導や学習活動を行う。</p>	<p>・「年間指導計画並びに実施表」を活用して学習指導計画をしっかりと立てることができた。来年度は新課程の完全実施となるため、十分な検討を行う必要がある。 ・今年度の「授業感想アンケート」等の反省を踏まえ、来年度の指導計画に反映させる。 ・生徒の家庭学習時間に改善が見られた。引き続き、家庭学習時間確保のための対応策の検討を行っていく。 ・問題意識を職員間で共有し、各教科で教材や指導法を工夫して学習指導を行った。引き続き、具体的な対応策の検討を行っていく。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>①基本的な生活習慣の確立 ②学校安全の推進 ③教育相談の推進</p>	<p>・遅刻、早退、欠席の理由を把握し、適切な指導を行う。 ・身だしなみについて日常的に意識させる。 ・生徒の安全を考え、組織的に対応する。 ・生徒の、交通安全への意識高揚を図る。 ・予防的な教育相談活動に取り組む。 ・不適応生徒を早期に把握し、組織的な対応を図る。</p>	<p>・遅刻、欠席統計の中間集計をみると、ここ5年間で最も遅刻者が少なかった昨年度よりも少ないという結果であった。しかし、ぎりぎりに登校する生徒も多いため、引き続き学年会に指導を依頼して遅刻の減少に努めていきたい。 ・式典、集会を利用して身だしなみの検査日を設定した。茶髪などの目立つ違反者はほとんどいなかった。今後は、日常的に身だしなみの意識を植え付けていきたい。 ・職員とPTAとの連携による交通安全指導日を設け、危険箇所の街頭補導を行った。 ・生徒交通委員により、クラスの生徒にアンケートを行い、自転車盗難箇所、危険箇所について報告した。 ・生徒交通委員と共に一宮警察、ライオンズクラブと連携をして、交通安全街頭指導を行った。生徒のみならず、自動車の運転手や地域の方々にも安全に対する意識を高めることができた。 ・累積10日以上欠席者と5回以上の保健室利用者についての状況を集約し、生徒相談協議会を通して職員に周知した。 ・スクールカウンセラーとの連携により、生徒理解を図り、早期の対応で生徒の心のケアに努めた。 ・学年会、養護教諭との連携を図り、生徒相談協議会や特別支援教育委員会を行った。結果については、職員会議で内容を周知するなど、不適応生徒に対するする知識の共有化を図った。</p>
<p>進路指導</p>	<p>①進路選択能力の育成 ②的確な進路設計 ③進路目標の堅持と幅広い視野の育成</p>	<p>・面談、進路相談の充実 ・適切な資料提示 ・進路検討会の充実</p>	<p>・生徒の将来の希望実現にむけての学習の方向性を示すことができるような面談が行えるよう、進路検討会のあり方を検討し、面談を行なった。 ・進路情報を適切に生徒に示せるよう、学年団・担任との連携を密にした。 ・生徒に望ましい職業観を育成するよう進路LTの充実を図った。また、合同LT等を利用し、進路的な視野を広めさせた。</p>
<p>生徒会活動</p>	<p>①活動の充実 ②生徒の力で作り上げる生徒会行事</p>	<p>・顧問会議と部長会議の有効活用をする。 ・生徒会執行部を中心とした指導体制の確立 ・生徒の力で各種行事が運営できるように意識を高めていく。</p>	<p>・部活動面においては、県大会以上の大会に出場する部活動も複数あり、部活動の充実は図られている。その一方で学習との両立に関しては半数程度に止まっているのが現状である。 ・生徒会役員への立候補も順調で、執行部も予定通り成立したことで、クラスとのやり取りをする機会も増え、内容を高めることができた。 ・常任委員会の委員長を中心とし、議員が協力する運営体制ができ、各種行事を運営することができた。</p>

学校図書館	①図書館の利用機会、利用者数、年間貸出冊数の増加 ②生徒図書委員会の活性化	・授業で図書館利用をアピールし、生徒への広報活動に力を入れる。 ・活動内容の見直しを図り、委員会活動を充実させる。	・今夏よりバーコードによる図書の貸出、返却を開始することができた。今後は更に、老朽化した図書を廃棄し、開架の全ての書籍にバーコードを付ける作業を進めたい。 ・図書館利用は自習目的が多く、年間貸出冊数も昨年度よりは増加したものの、依然として低調であった。授業、LTでの利用を促したい。 ・図書委員の総務係を中心に積極的に活動し、文化祭企画、講演会は成功した。今後は展示企画、読書会、「たより」等の広報活動を充実させたい。
学校保健	①美化活動の充実 ②環境問題への取り組み充実	・通常の清掃活動、特別清掃の充実を図る。 ・ゴミの分別、減量リサイクル徹底	・通常清掃、特別清掃（校内外美化活動、スノコ清掃、側溝清掃）ともに職員・生徒の協力のもと計画通り実施できた。 ・文化祭の当日清掃については、生徒会と協力して実施できるよう進めていきたい。 ・少数ではあるが年間を通して、ゴミ捨てマナーに反する状況が見受けられた。ゴミの分別、減量、リサイクルの意識をより一層高めるように指導していきたい。
	①保健・安全教育の充実 ②保健安全指導の推進	・生徒保健委員会活動の充実を図る。 ・心身の健康や安全指導の充実を図る。 ・健康観察の充実を図る。	・定期的な委員会活動を目指して、生徒による保健便りの発刊、上水道の水質検査などを行っている。特に夏季は熱中症予防、冬季は感染症予防のための広報活動に力を入れ活動した。 ・美化係をつくり、主体的に働くよう指導した。保健委員がゴミ処理の状況を把握ができるように指導し、その結果を踏まえて、2学期の終業式で保健委員長が生徒全体に訴えかけた。今後も、より積極的に活動できるように指導していきたい。 ・熱中症について、職員は職員会議で共通理解を持った。 ・部活動のリーダーを対象に熱中症を中心にした安全講習会を実施し、一定の効果を上げることができた。 ・今年度より生徒の心身の問題を早期発見・把握するため健康観察を具現化し、その流れを明確にした。また、学年会との情報交換を密にし、保健室に情報が集約されるようにした。保健室に来室しない生徒についても把握が日常的にでき、こちらからアプローチすることができた。
ファッション創造科	①創造力・実践力の育成 ②知識・技術の習得 ③地域社会に貢献する人材の育成	・ファッションの創造や保育に関する専門的な知識や技術を習得させる。 ・地域社会が求める資質や能力の向上を図る。	・校内外における研修や講習において専門科目への充実を図ることができたことは、新しい時代に適応した創造力や実践力を高める機会となった。 ・選択したコースに応じた新しい内容の実験・実習を实践したことは専門的な知識が深まり、豊かなライフスタイルを創造する能力を育成することができた。 ・外部講師による講習会やインターンシップ等の実施で、地域社会の求める人材像を感じさせることができた。 ・ファッション創造科の集大成となる卒業研究発表会等、教育活動の充実に取り組み、地域への成果の還元を図ることができた。今後より充実させていきたい。
総務	①学校に関する情報発信の充実 ②防災教育の充実	・ホームページの内容充実 ・防災教育の研究と実践	・常に情報の収集に努め、コンテンツを充実させてきた。 ・学校から発信すべき情報について考え、ネット配信について研究を始めた。 ・防災避難訓練時、生徒にアンケートを実施し、減災の意識付けを行い、集会でその内容を全校生徒にフィードバックした。 ・校内環境の安全に努めたが、まだ不十分な箇所が多い。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	・学習指導における授業改善と多様化する生徒に対応した学習指導について ・生徒の基本的な生活習慣の確立について ・部活動と生徒会行事の充実について		